



一般社団法人
日本建設業連合会 関西支部
支部長 水野 将

1984年の創刊号から毎年刊行してきました「しびる」は30年という節目を迎えました。この30年は、日本経済の発展とともに大きく伸びた建設投資を背景に大型インフラのプロジェクトが次々と進められた時代と、バブル景気の崩壊から社会インフラに対する建設投資が減少の一途を辿った時代でもありました。

一方で、東日本大震災や紀伊半島大水害を契機に防災・減災への機運が高まり、自然災害への対策事業が着々と進められてきました。また、高度経済成長期につくられた社会インフラの老朽化に対応した維持・更新が喫緊の課題となっています。まさに社会資本整備のあり方が見直されつつあります。

日建連関西支部は「しびる」の発行を通じ、これからも建設関係者のみならず広く一般の方々に社会インフラに関する情報を発信することで、社会資本整備の重要性、災害緊急対応など建設業が担っている社会貢献や建設業の魅力を伝えるとともに、安心・安全な国土づくりに貢献していきたいと思ひます。

CONTENTS

ごあいさつ	1
一般社団法人 日本建設業連合会 関西支部 支部長 水野 将	
30周年記念特集	
To The Future	
特集第1部	
巻頭対談	3
強くしなやかに発展するための社会資本整備を!	
前 国土交通省 近畿地方整備局長 谷本 光司 氏	
フリーアナウンサー 毛利 聡子 氏	
特集第2部	
キーワードで綴る社会資本整備30年	11
第一章 夢と成長	
第二章 関西復興と再生	
第三章 復興と減災	
しびるレポート	17
和歌山下津港海岸 海南地区津波対策事業	
歴史街道を行く	21
若狭街道を訪ねて	
しびるスポット	25
大滝ダム(奈良県吉野郡)	
ランドマーク	27
安治川トンネル(大阪市)	
しびるTOPICS	29
「土木技術者 女性の会」インタビュー	
土木技術者 女性の会 関西地区世話役 村上 育子 さん	
淀川河川敷での水防演習と津波対策演習に、関西支部も参加	
大阪府との連携協定調印式を実施	

To The Future

強くしなやかで、活力ある社会づくり それが「レジリエンス」

『しびる』発行から30年。この30年を振り返ると、今がまさに、これからの新たな社会資本整備のあり方を展望すべき時だということがわかります。技術の進歩とともに急速な発展をみた社会資本整備、そのビッグプロジェクトの数々。一方で日本を震撼させた巨大災害の数々。それでもわが国のインフラ事業は、不屈の精神でダメージから立ち直り、さらなる成長をとげてきました。

30号では、こうした社会資本整備の歴史をたどり、未来のインフラに何が必要なのかを問いかけます。何が起こってもそれに対応できる強くしなやかな社会。そんな「レジリエンス®」な社会を実現する「ヒント」をこの特集を通じて見出していくことができると考えます。

※レジリエンス:(resilience)一般的に「復元力、回復力、弾力」などと訳される言葉で、近年は特に「困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる力」という心理学的な意味で使われる。社会のあらゆるレベルにおいて備えておくべきリスク対応能力/危機管理能力としても注目を集めている。

